

新学校点描

朝校門に立っていると、空から白鳥の鳴き声がします。V字になって、北に帰るようです。

《K中学校》

NO.18 R4. 3. 9

担当：校長

M地区の中で、新型コロナがまた拡大してきました。高校受検も、いよいよ10日の公立高校一般入試を残すのみとなりました。受験する3年生の生徒17名は、放課後残って自主学習に励むなど、最後まで本番の入試に向けて努力しています。15の春はもうじきやってきます。

もやしの心

この時期の3年生の教室には、もう進路を決定した生徒と、まだこれから受験に挑もうとしている生徒と2つに別れます。わたしの時代もそうでしたが、最後の最後まで自分の挑戦の日が待っている生徒にとっては、辛いものです。でも、この辛さを乗り越えた先に、きっと達成感とか充実感があります。それは明日です。



もうわたしが高校に入ったのは40年も前です。

運良く自分の入りたい高校に入学して、希望を持って入学して、いわゆる担任という先生から話しを頂きました。

「俺は英語の教師だ。俺もこの学校最初なんだ。たぶん3年間、君らと一緒にだろう。俺は妥協しないからな。」こっちも、入学したばかりで緊張していたこともありましたが、なんとなく、とっつきにくい人だなあという思いでした。年齢からいうと、31、2歳の青年教師。でも、その後、わたしにとって、この人が高校3年間ずっと自分の担任になるとは思っていませんでした。

高校には、LHR（ロングホームルーム）なんて呼ばれる、学級裁量の時間がありました。大学進学者が多いその高校は、ほとんどのクラスはこのLHRの時間を、何らかの学習時間に割いていました。時に、学期に1回、定期テスト終了後ぐらいに、体育館で遊ばせてもらえるのが、担任として好かれる尺度になるのです。

しかし、我が担任教師は、学習にも遊びにもこのLHRの時間を使いませんでした。ただの一回もです。何に使ったかという、まあ小中学校で考えると道德の時間でしょうか。でも、やっぱり違いますね。そう、人生論を語る時間なのです。

高校入学直後は、人生や生き方なんてものに全然興味がなかったわたしです。わたしだけでなく、ほとんど周りの生徒みんなそうでした。

「お前らな、偉くなれ。でも、勉強だけでいても人間はクズだぞ。偉い人間ってやつは、頭じゃないんだぞ。東大、京大にいても、偉くなんかないんだぞ。お前らなんかのような、もやし人間なんてたいしたことないんだぞ。」人をもやし呼ばわりする点で、またも好感度はダウンです。でも、“学力が高いことが一番なんだ”みたいなことを言う先生が多い中で、この担任の先生がこんな事言うなんて意外だったんです。

数々のLHRの時間に、彼はいろいろな人間の生き方を語ってくれました。最初は、隣のクラスが体育館でバスケットで遊ぶと聞くとうらやましく思っていたのですが、だんだんみんなあきらめがついてきましたね。

この高校に来る前は、宮城県の水産高校で教師をしていたこと。勉強なんて海の男には、何にも関係ないから授業中寝てるやつがいっぱいいいたこと。でも、彼らは命がけで海に出る事をしっかり知って生きていたということ。だから、海に出るとき、生きて帰ってきたときは、いつも学校に報告に訪れたこと。だから、もやしのお前らより偉いんだと必ず一言。

こんな話を毎週のように聞いていくと、何くそ！俺の人生だって偉いんだ！！」と思いたくなるんですね。

高校も3年目だったか、ある日『お前達の信念を言ってみろ。』なんてむちゃくちゃな質問をLHRで出されたことがありました。「信念や信条なんてものは無いです。」とほとんど全員答える中、3年間、この青年教師と付き合ってきたわたしは、この質問に負けたくなくてこう答えたことを憶えていますよ。「応援することを使命と思う人間です。例え自分が情けない状況にいても、目の前でひざまづく人を応援する人間です。」と。例え自分が情けない状況にいてもというところに、若気の至りがありますが、基本的に信条は、40年経った今でも変わりません。そしてこう答えたとき、何度かうなずいた担任の顔を思い出します。

わたしにとって高校というところは、楽しかったとは言いにくいですが、「自分は何者だ」と考えた場所でした。

今のわたしは、明日の受験を迎える君たちを応援することしかできません。

でも、それをしなくては自分が自分らしくなくなります。だから応援をつづけます。

きっと、今日まで苦しみ悩んできた君たちだから、明日はきっと君の道が開かれます。

たとえもやしの心でも、火をつけてくれる人が未来に必ず待っています。がんばれ。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp